

天遊



Contents

男女共同参画推進コラム
手をつないで VOL.10

役員紹介
岡本幾子図書館長

ラボ訪問
教職大学院教員

STUDENTS NOW!

卒業生キャッチ

附属学校園ウォッチ
本読みのススメ 第11話

TOPICS

特集
新教員養成課程長・

新教養学科長インタビュー



新 教員養成課程長・教養学科長 インタビュー Interview

平成27年度4月より、教員養成課程長に伊藤敏雄教授(社会科教育講座)が、教養学科長に安部文司教授(欧米言語文化講座)がそれぞれ就任しました。
教育学部の双璧をなす二人に、課程・学科が抱える課題とその対策について伺いました。

「ミッションの再定義*」により、学部卒では教員就職率65%を確保することが文部科学省から要求されています。今後、この数値目標を継続して達成するにあたり、伊藤新課程長の対策案を聞かせてください。

何よりも、学生の質の向上が最優先です。今後、全国的に教員採用数が減少していくことが予想されますが、たとえ枠が少なくなったとしても、他大学の学生に勝てる学生を増やしていくことが重要です。そのためには、専門性を大事にしながら、授業の質を高め、実践的な内容を増やす必要があります。そして、複数免許取得のカリキュラムがあることが本学の強みですから、小中一貫教育に対応できる学生の数を積み上げていくことに重点を置きたいと思っています。

教員養成課程長

伊藤 敏雄

【略歴】

1983年 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科史学専攻単位取得満期退学
1989年 大阪教育大学教育学部専任講師
1991年 大阪教育大学教育学部助教授
2001年 大阪教育大学教育学部教授
2014年 大阪教育大学国際センター長
専門は中国古代史



「国立大学改革プラン」で、本学はグローバル化の推進を選択しました。教員養成におけるグローバル人材の育成も急務です。

グローバル人材の育成について現在実施しているものの中では、大学院教育高度化プロジェクトの一環である、「教員養成課程海外教育実習体験(台湾)プロジェクト」が代表的です。本学との協定締結校である台湾・高雄師範大学の附属学校において「英語」で授業をするプログラムで、平成24年度から始まりました。来年度からは単位化し、大学院の授業の一環として行われます。わたしも積極的に参加して学生の声を聞き、学生の取り組む様子を見守っていきます。学部では、本年度のカリキュラムから英語科目が必修になりましたので、その充実を図ります。また、昨年度国際センター長に就いていたので、センターとも連携しながら、留学生の受け入れを増やし海外留学を促進する方策を取りたいと思っています。

学生の意見も積極的に取り入れて運営するということですね。

大学の基礎は学生です。課程長という立場になっても、これまで以上に学生とふれあう機会を増やしていきます。今も社会科教育講座の講義を担当していますが、ほかの専攻学生とも何らかの意見交換をする機会を設け、幅広く、学生の意見を取り入れられればと思います。

教養学科とはどのように連携していきますか。

今後の方向性については、大学全体で考えるべきです。教員養成課程としても、教養学科との協力や連携が必要です。今後組織改革していくにあたって、安部文司教養学科長や田中俊弥夜間学部(第二部)主事と相談しながら、大学がより良い形へ進んでいくよう、三位一体となって相互に連携していきたいと思っています。

学生にメッセージを。

学生には「良く学び、良く遊べ」と常々口にしていきます。「良く学び」は言わずもがなですが、「良く遊べ」は人とのふれあいをつくってほしいという願いを込めています。多様な専攻に多様な学生が存在しますから、殻に閉じこもらず、どんどん外に目を向けて、かけがえのない仲間とかけがえのない時間を過ごしてください。

※国立大学と文部科学省が意見交換を行い、研究水準、教育成果、産学連携等の客観的データに基づき、各大学の強み・特色・社会的役割(ミッション)を整理したものを

「ミッションの再定義」において、教養学科は抜本的な改組を文部科学省から要求されています。

教員養成と教員組織を一体化させるという案もありますが、どう改組がおこなわれるにしても、幅広い教養を基礎にして深い専門性を身につけるという教養学科の理念と伝統が活かされるものであってほしいと思います。

そうした状況であればこそ、教養教育の重要性を再認識する必要がありますね。

教員養成系大学だからといって、教員養成だけのための教育に特化しすぎていいのだろうかと感じます。教員養成教育至上主義では、視野が狭く、教養のない先生を生み出すのではと危惧しています。改組で教養学科がどのようになるかと、広い視野、幅広い教養を教員志望の学生にも提供する、その根本は失ってほしくないと思っています。

昔の師範学校に戻ってしまうのではという声もあります。

オルテガ・イ・ガセットは著書『大学の使命』の中で、大学の役割は次の3つだと喝破しています。「専門職教育」、「研究」、そしてもう一つが「教養の伝達」です。教養は人生をただ生きるのではなく「よく生きる」ために必要なものです。教養教育は、大学が大学である存在意義のひとつといえます。教養教育のない学校というのは、たとえば高等教育機関であっても大学ではなく専門学校です。大阪教育大学も大学である以上、教養教育を大事にしてほしいですね。学生も教養教育の重要性をわかってほしいです。

教員養成課程とのいっそうの連携も必要ですね。

これまで、教職科目は教員養成課程が、教養基礎科目と共通基礎科目は教養学科が受け持ってきましたが、今後は、大学の教育全体として、教養学科と教員養成課程がお互いを補完し合うことが必要です。それぞれの専門教育においても、共通の基盤を提供できるように、教員養成課程とも連携していきます。

学生にメッセージをお願いします。

「授業に出よう」です。わたしは学生時代、出席を取らない授業は欠席しましたし、出席を取る授業は代返、中抜け、エスケープなど、ありとあらゆるさばりの手段を使い、ほとんど出ませんでした。でも、卒業したとたん後悔しましたね。大学の授業は学生時代にしか経験できません。授業には宝が埋まっています。宝と呼ばれるものはなんでもそうですが、本人が価値を認めなければガラクタに過ぎません。私も宝の山にいなから、その価値に気づいていませんでした。私は大学を卒業して企業に就職しましたが、仕事をすることで、大学教育、それも教養教育のありがたみが身に沁みると共に、まともに授業に出なかったことをほんとうに後悔しました。大阪教育大学でもたくさんの授業が開講されていますが、私には宝の山に見えます。だから、ちゃんと授業にでて自分の宝を見つけてください。私みたいに大学を出てから後悔しないように。



教養学科長

安部 文司

【略歴】

1989年 フレッチャー法律外交大学院法律外交修士課程 修了
1994年 京都大学大学院法学研究科修士課程 修了
1996年 大阪教育大学助教授
2002年~2003年 ハーバード大学ライシャワー研究所客員研究員
2005年 大阪教育大学教授
専門は日米関係史と安全保障

男女共同参画推進コラム

手をつないで

VOL. 10

「わたし」のなりたちと他者を理解することの意味

今回は、私の研究テーマにかかわる、少しややこしい理屈の話におつきあいいただけたらと思います。

発達心理学の中には、「子どもの自己の発達」という研究領域があり、筆者はその研究をしています。私たちはそれぞれ、ほかの誰ともちがう固有な「わたし」の感覚、理解を持って生きています。そのような感覚、理解がどのようになりたち、育ち、私たちの行動と結びつくのか、そんなことを考えます。

さて、このような研究では、「わたし」を知ることと「他者」を知ることが切り離せないということがしばしばいわれます。子どもたちは親をはじめとした周囲の人々とのかわりの中で「わたし」をはっきりさせていきます。私たち大人もあらためて「自分」の存在を感じ取り、考えるのは、多くの場合、他人とのやり取りの場面です。また、私たちの個性、例えば性格や持味というものは、自分と他者の比較を通して意識されていきます。

このように考えると、他人について「こんな人だ」「こうあるべきだ」と決めてかかることは、実はその他者にかかわり、それに対比される自分自身のあり方を制約することと表裏一体であるように思われます。例えば「女性はこう行動するべきだ」と考える男性は、その女性にかかわり対比される自分自身を「男性としてこうあるべきだ」と(はっきり意識するかどうかは別として)位置づけ、自分の新たな可能性を発見できなくなるのではないのでしょうか。

もちろん、私たちは相手を理解せずに人とかかわることはできませんし、社会の中では役割に応じてすべきことが決まっていることも多くあります。ただ、まだ知らない自分の可能性、持ち味を知ったり、自分のまだ知らない弱さに気づいたりするためには、ひたすら自分を見つめる(内省する)のではなく、自分の周囲の他者も多様な未知の個性に敏感であることも大切でしょう。そう考えると「男女共同参画」も、それぞれが自分の新たな可能性に気づくきっかけになるように思われます。

男女共同参画推進会議 企画専門部会委員 小松 孝至(学校教育講座)

岡本 幾子 附属図書館長に 聞く!



附属図書館長

おかもと いくこ
岡本 幾子

【略歴】

2002年4月～ 教養学科健康生活科学講座教授
2004年4月～2014年3月 学長補佐(施設マネジメント)
2014年4月～ 附属図書館長兼副学長



「皆さん、ぜひ図書館に来てください」と岡本幾子附属図書館長は学生に向けて語りかけます。「最近では多読本コーナーや、300冊以上の学生選書コーナーを設け、ツイッターも始めました。スタッフが常に工夫しながら、新しいものを取り入れていますので、ぜひ足を運んで活用してくださいね」と朗らかな笑顔を浮かべました。

その人柄が示すように、岡本館長は、広島県江田島市ののどかな田舎町に生まれました。全国でも珍しい上級生との複式学級で学んだことから、本人いわく“こましゃくれた”少女は、被服学を志して、県立広島女子大学家政学部に進学。大阪市立大学大学院の博士課程後期を修了した後、1980年に本学家政教育講座に助手として採用されました。「当時は研究室が池田分校にあり、とても古い建物でエアコンもなく、1階の研究室から窓の外へ打水をして暑さをしのぐ環境でした。一生をお仕えする場所がここなの、なんて心細く思ったものです」と照れ笑い。

学生との印象深い思い出を聴くと、“5本指の手袋”の話を語りました。「被服構成実習の助手をしていたときに、5本指の手袋を編むには、指用の開口部を5ヶ所作らないといけないのですが、手のひらの真ん中に親指用の開口部を作っている学生がいたのです。この手袋は親指が入りにくいね、どうやったら使える手袋が作れるかな?なんて皆で大笑いしました」と、学生と一緒に悩み、考えること

を信条とした岡本館長らしいエピソード。「実習から学生のさまざまな個性が垣間見えます。考え方、対応の仕方は人それぞれですが、皆基礎の大事な部分は固めて巣立ってくれました」と振り返りました。

自身の現在の専門は『色彩環境学』。助手時代までは、界面科学の領域で被服の汚れを、繊維を傷めず除去する研究をしていましたが、教養学科の一員となったのをきっかけに、より広い視野での安全と快適を追求する時代になると感じてシフトチェンジしました。「汚れを落とすということは布に付着した不要なものを除去すること。一方、同じ研究領域の染色は、布に必要なものを付与すること。一見逆のようですが、発想の根本は良く似ています。染色実験では染色物の測色を行い、色彩をデータで管理します。現在は測色の手法により生活に役立つ環境色彩について研究しています」。

2004年からは学長補佐として施設マネジメントを担当し、ここでも色彩環境学の観点を発揮しました。柏原キャンパスのエスカレーター乗降口付近には、心とむよようにと季節を問わず色とりどりの花々が広がっており、岡本館長の粋なはからいが息づいています。

その後、図書館の運営委員を務めた経験から図書館長に任命されました。「これからの図書館は、情報収集の場として重要な役割を果たすこととなります。情報発信が求められる現代、各部署が独自に管理する情報の種類を把握し、より効果的な発信の組み合わせ方を考案するなど、新しい情報収集システムの構築を検討しています」。また、図書館は教員の研究活動にも不可欠で、「電子ジャーナルの予算確保が厳しくなる中、いかに質を落とさずに研究支援を続けるかの裁量が求められています」と言及しました。

図書館長としてこれらの課題に対応するだけでなく、健康生活科学講座の教授として、講義や実験・実習指導などにも携わっています。「図書館長を兼務しているからといって、教育者としてもっとも重要な学生指導をおろそかにしてはダメですから」といつもは穏やかなまなざしが、このときは力強く光りました。

趣味はホームセンターめぐり。「身近にあるもので、“こういうことができるな”“こんなものも売っているんだ”と情報収集するのが楽しい。担当している免許更新講習でも、実験用の器具や装置を使って提示するだけでなく、100円ショップにあるもので実演するのが腕の見せどころじゃないですか」と休日でも仕事熱心な岡本館長でした。



visit the LAB

【ラボ訪問】



大学院連合教職実践研究科
研究者教員

てらしま こうすけ
寺嶋 浩介
准教授

「大阪の教育界の中核組織に」

大阪府で初となる教職大学院が、この4月から『大阪教育大学大学院連合教職実践研究科(以下「本研究科」)』としてスタートし、37人の学生が1期生として一歩を踏み出しました。学生をサポートする教員陣も、各分野で数多くの業績を誇る研究者教員と、大阪府内の学校や教育行政で、長年教育問題の解決に尽力してきた実務家教員による精鋭18人が集まりました。

研究者教員の一人、寺嶋浩介准教授は2015年1月着任。長崎大学教育学部および教職大学院で10年間、教育学とメディア(視聴覚)教育を専門として実績を積み重ねてきました。「耳慣れないことばだと思いますが、教育学とは学校現場で起こっているさまざまな問題を、ツールを用いて解決する実践的な学問です。現在だとICT(情報通信技術)を駆使したものの、タブレット端末が代表的ですね」。

タブレット端末の教育活用により、社会科の時間に全国のニュースを調べたり、体育の時間にお互いの動きを動画で撮影したりと、授業の形態が一変しました。「先生が言葉で教える時代から、子ども同士で共同して何かを創り上げたり、議論したりといった、子どもたちも授業の主導権を握れる時代が到来しました。教育学のツールは、そうした新しい授業モデルの

可能性を広げるものです」とその意義を語ります。

長崎大学と本研究科での研究指導における違いを問うと、大阪の特殊性を挙げ、「大阪という地域の特徴として、歴史的な背景から、さまざまな学校があり、さまざまな子どもがいます。教育学の視点を通して、その多様性を活かしたプログラムやリーフレットなどを開発し、教育現場に還元するといった支援も必要になるのではないのでしょうか」と課題を打ち立てました。

本研究科は研究者教員と実務家教員がペアを組んで授業を進めるのが特徴です。「実務家教員の先生方は、元校長や元指導主事など、学校現場や教育行政の経験が豊富な名だたるベテランぞろい。先生たちから学ぶことも非常に多い」と語ります。これからの実践研究を進める1期生については、「学部を卒業してそのまま入学してきたストレートマスターを中心に担当していますが、とてもはきはきとしていて、教員への熱意があふれています」と高く評価しています。学生へのメッセージとして、ストレートマスターには「現場で重宝される即戦力になることはもちろん、大学院で得たものを自身の武器に変えてもらいたい」、現職教員には「得られた知見や技術を自身の中だけにとどめず、周りの教員や学校、地域に影響を与えられるよう、実践

研究の成果を外に発信してほしい」と期待を込めました。

『学び続ける教員』が本研究科のキーワード。寺嶋准教授は、修了後のコミュニティネットワークの広がりにも言及し、「大学院の期間は二年間と短い。修了してからも、大学院と修了生同士が実践研究を進めるひとつのコミュニティを創り上げて、大阪の教育界の中核を担う一大組織に育ってくれば」と展望を語りました。

私生活では、妻と一歳になる娘との三人暮らし。出身は京都ですが、大阪での生活は初めてで、新しい環境に適応するのに忙しく、唯一の息抜きが娘と遊ぶことだとか。かわいい盛りですねと声をかけると、それまでの真面目で端正な表情が崩れて「うーん」と唸り、「よく泣く子で元気盛ります」と苦笑い。一年生パパとしても日夜奮闘中です。



Students Now!



さいとう はるき
齋藤 遥さん

Haruki Saito

教養学科文化研究専攻 4回生
サークル「FILM」2014年度代表
大阪府立豊島高等学校卒業

自分の目と足で伝える

2011年3月11日、日本中を震撼させる大災害が起きたとき、齋藤遥さんは教員をめざして大学受験の真っ只中でした。「数日間は勉強を中断してテレビにかじりつきでした。『何ができるかわからないけれど、ぼくも現地に行きたい、でも自分の足場も固めずに誰を救えるのか』、その繰り返しでした」と葛藤の日々を振り返ります。

翌年晴れて本学に合格。最初の夏休みとなる2012年7月、初めて岩手県陸前高田市へ足を運んだ齋藤さんは、想像をはるかに超えた光景を目の当たりにしました。「阪神大震災では、折れた高速道路がよくテレビに映し出されていたのですが、こちらは骨組みしか残っておらず、駅のプラットフォームには線路の跡すらない。津波を伴う震災はこんなにも苛烈なものなのかと痛感しました」。無力感にさいなまれ、何もできないまま家路につきました。

初めての取材を終え、自分にできることは何かと悩んでいた時に、同じ志を持つ仲間と出会い、思い至った答えが「写真」でした。「この震災から学ぶことはたくさんあるはず。現地の光景、そこに生きる人、そのありのままを映し出す写真を用いて、大阪に住む人々に伝えられることがあるはず」。そう思い立ち、2013年4月、齋藤さんをはじめ6人の有志が集い、プロカメラマンに写真提供を仰いで、被災地の様子を伝える写真展『みちのくphoto caravan』を開催しました。1週間でのべ500人が来場する盛況ぶり、メンバー全員が「このまま終わらせてはいけない」との思いを一つにしました。「この活動も継続しなければ価値がなくなってしまいます。今度は自らがカメラを持ち、東北から大阪へ、思いを伝えよう」と誓い合い、写真をツールとした情報発信サークル『FILM』を結成しました。

2014年7月、齋藤さんはカメラを片手にふたたび陸前高田の地を踏みまわりました。がれきの撤去も終わ

り、かさ上げ工事が始まって、街の再生は順調に進んでいました。しかし、「それを復興と呼ぶのに強烈な違和感を覚えました。家も、思い出も、人が生きた証すべてを土の中に埋めて、工事納期によって進むこの状態が復興であるならば、それは人の心には寄り添えないものだと感じました」。その日は一日中、ベルトコンベアが、山から土を運ぶ無機質な音を響かせていました。

その年の秋、違和感を抱えたまま、齋藤さんはたびたび陸前高田を訪れ、現地の人に思いをぶつけてみました。「こんな復興気持ち悪くないですか?」と。返ってきたのは「それでも早く新しい街が見たい」という言葉でした。さらに立ち寄った旅館のポスターには、『前よりもっと良い街にしてやる』という文字が。「ぼくが感じる以上に、現地の人たちは日々変わっていく風景に希望を見出していることに気づかされました。皆、見える形の復興を心の復興につなげているのですね」と違和感も消えていきました。

2015年1月、東北取材の集大成である写真展『FILMが写した世界』を開催しました。震災の爪痕が残る光景から復興をめざす人々の表情まで、震災を乗り越えて今に生きる東北の姿を35点の写真に収めました。『みちのく〜』を上回る来場者が訪れ、アンケートには、『震災がこんなに凄惨なものだと知らずにいたことを知った』『大事な人をもっと大事にしたいと思った』『この災害を教訓に、防災グッズをそろえた』など、用紙いっぱいびっしりと感想が記されていました。「皆が被写体を記憶に刻み、大事な人を守るための一歩を踏み出してくれれば、ぼくはこんなに嬉しいことはありません」と顔をほころばせました。

将来の夢を聞くと、「大阪で教師になったら、いつか教え子に、街も、人も、復興を遂げた東北の姿を見せに行きたい」と締めくくり、「桜を撮りに」と言い残すと、カメラを肩にかけ、また東北の地へ向かっていきました。



夕焼けに照らされる一本松(写真展『FILMが写した世界』より)



こばやし なお
小林 奈央さん

Nao Kobayashi

教養学科スポーツ専攻 4回生
水上競技部所属
羽衣学園高等学校卒業

夢への積み重ねが未来をつくる

期待が重圧に変わることはないですか?と問うと、「実力の世界ですから、期待されていることが幸せだと思わない」と小林奈央さんは澄んだ瞳でこちらを見据えました。水上競技部に所属する、本学のスーパースターです。第89回日本選手権水泳競技大会100mバタフライ3位、第6回東アジア水泳競技大会100mバタフライ2位、第27回ユニバーシアード競技大会200mバタフライ2位と、国内外で高い実績を誇り、本学の学内表彰でも毎年常連です。

初めて水とふれあったのは、姉二人の影響からスイミングスクールに通い始めた5歳のときでした。「最初は水が怖くてスクールが嫌でしょうがなかったのが、物心ついたころには水の中の世界が日常になりました」と振り返ります。結果が出ず、水泳をやめたいと思うこともありましたが、「良い記録が出たときの達成感もあります。やっぱり泳ぐことが大好きです。それに、今こうやって水泳ができるのは、家族やコーチ、先生方をはじめとした周りの支えがあったこそですから」と語ります。

高校時代にはすでに頭角を現していましたが、大阪教育大学に進学した理由は、「水泳だけでなく勉強にも励める環境に身を置きたかったから」となんと真面目な彼女らしさを表わしています。所属するスポーツ専攻では、授業にさまざまなスポーツ実技があり、「他の競技をプレーできるのは単純に楽しいし、陸上では身体の繰り出し方を、剣道では心技体における集中力の高め方を意識し、学んだことのすべてが水泳につながるように取り組んでいます」と充実した学生生活を送っています。

入学後初の大舞台は、1回生の春に開催された第88回日本選手権水泳競技大会で、ロンドン五輪代表選考会を兼ねていました。五輪代表選手の決定には、選考会決勝

において優勝および2位で、なおかつ五輪派遣標準記録を突破しなければならず、会場にはピンと張り詰めた空気が広がっていたといいます。「緊張が身体を走りましたが、空気に呑まれたらもったいない。この決勝の舞台上に立てる幸せに感謝して、自分のレースに集中しようと臨みました」。結果は2着になるも、五輪派遣標準記録に0.31秒届かず代表権を逃しました。試合直後は、代表にあと一歩届かなかった悔しさが込み上げ、4年後に懸ける思いがより強くなった瞬間でした。

その後、幾度と出場した国際大会でも得るものが多くありました。「競泳は個人競技ですが、大会では代表選手一人ひとりが日の丸の重みを背負い、チームとして戦っています。それに海外は、お互いを尊重し、健闘を称え合う精神に富んだ選手が多く、出場を重ねるごとに、またこの雰囲気味わいたいと思うようになりました」

入学から着実に成長を重ね、今や水上競技部のエースです。それまで自分自身との戦いで必死だったのが、大学生活を送る中で、チームのことを考える余裕も出てきました。「言葉であれこれ言うよりも行動で示し、チームを良い方向に牽引したい」と最上級生の自覚をもちます。そんなストイックな彼女の意外な大好物が、試合のご褒美に、家族や友人と食べる焼き肉。そのつかの間の時間がとても貴重で幸せだと屈託なく笑います。

ついにはリオ五輪代表選考会まで一年を切りました。夢に近づいたためには一日も無駄にできません。「練習だけでなく、栄養や睡眠など、日々の生活の要素の一つでもおろそかにするとコンマ1秒を競う泳ぎに影響してきます。今日の頑張りが未来の自分をつくる、その意識が必ず憧れの舞台につながると信じています」。4年間の集大成に向けて、前進する日々が続きます。



卒業生^{キャッチ} Catch

大阪教育大学を巣立ち、さまざまな分野で活躍する卒業生を紹介します。



国立ホーチミン市師範大学
日本語学部学部長
カオ・レ・ユン・
チーさん
元日本語・日本文化研修留学生
2001年～2002年

ハノイ大学
日本語学部副学部長
ファム・トゥー・
フォンさん
元日本語・日本文化研修留学生
1997年～1998年

ベトナムと日本の架け橋として

久々の母校はいかがですか。

フォン チー先生は12年ぶり、わたしは17年ぶりに足を踏み入れましたが、キャンパスの雰囲気もずいぶん様変わりしていて、懐かしい気持ちと新鮮な気持ちの両方が胸にこみ上げてきます。

チー でも、お世話になった先生方は変わらず優しく、当時に戻ったようです。

役職名から管理業務が主体のように思えますが、現在のお仕事内容は？

フォン 副学部長といってもメインは授業です。現在日本語学部の学生は約1000人いますが、個々の学生のサポートもしています。もちろん管理業務もありますが、学生と直に接する仕事が多いですね。

チー わたしも授業がメインで、週にして約15コマ程。本学では日本語学部の学生が約650人、第二外国語として学んでいる学生が約250人、あわせて約900人ですが、受け持っている学生の顔は全員把握していますし、進学や就職などのキャリア相談にも応じてい

ます。

日本語学部ではどのような授業を？

フォン 現在ベトナムに拠点を置く日系企業は1000社以上にのぼり、今後、日本語学習の需要はますます高まっていくように思いますが、民間の日本語スクールとは違い、語学の習得だけでなく、高度な人材を開発することが高等教育機関の役割です。日本の文化や歴史を学び、日本への知識や理解を深めるとともに、ベトナムと比較考察して自国の良さも再認識させています。

チー 本学では、日本人の企業研修コンサルタントを招き、「ビジネス研修による異文化コミュニケーション」という新しい授業を導入しました。ビジネスでの仮想場面を設定し、会議時間に遅れたときの理由を報告できるか、客に商品を勧めるときにどう説明するかなど、口語表現を使っていかに流暢なコミュニケーションができるかを重視しています。わたし自身の経験上、どんなに読み書きが優れていても、生きた日本語を話せなくてはその価値も半減してしまいますから、卒業後のキャリア形成も考えた実践的な演習を展開しています。

留学生時代の思い出を聞かせてください。

フォン 文部科学省から奨学金をいただいて、日研生として来日した当時、わたしは20歳でした。初めての海外、それも日本のような先進国に行けるとあって胸を弾ませましたが、来日してギャップを痛感しました。まさかキャンパスが山の上にあるなんて…。それは冗談としても、社会生活の意識ベースがまったく違いました。いろいろありますが、やはり時間に対する意識の差が一番ですね。ベトナムは遅刻しても自分も相手もあまり気にしませんが、日本では非常識とみなされますし、人だけでなく、1分刻みで緻密に計算された電車のダイヤにもカルチャーショックを受けました。そんなことがあっても日本の生活に溶け込み、大阪教育大学で日本人をはじめ様々な国の友人ができました。それに、「就活」も経験しましたよ。日本企業の現場で働いた経験は教壇で発揮されています。日本に滞在していたのはほんの数年間ですが、いつまでも色あせない、すばらしい思い出です。

チー わたしも日研生として留学したのはほんの1年ですが、人生の中でも指折りの幸せな時でした。神尾暢子先生(現名誉教授)や長谷川ユリ先生(国際センター教授)のご指導のおかげで、日本語も上達しましたし、当時から現在に至るまで、先生方との付き合いは続いています。学部長として、いろんな人にアドバイスや指導をしています。立場上、わたしが疲れた時や困った時には弱音を吐ける相手がいまいません。そんなとき、神尾先生や長谷川先生に、「先生教えて、困っています」と助言を求めています。先生方はいつまでも、わたしの先生なのです。

神尾先生との間に心に残るエピソードがあるそうですね。

チー 大阪教育大学に初めて来た日、先生からりんごをひとついただきました。そのときは「なぜりんごをくれたのかしら」と不思議に思いましたが、なんだかとても温かい気持ちになりました。一つのりんごからお互いの信頼関係ができたようで、言葉が通じなくても関係は構築できるのだと感じました。今は先生を真似て、わたしも日本人留学生に果物を贈っています。

大阪教育大学はベトナムの留学生にどんな魅力をアピールするべきでしょうか？

フォン 先生方が親身になって指導して下さいますし、日本人学生やほかの留学生もとても親切です。それに閑静な場所で勉強に



集中でき、学校が終われば賑やかな繁華街に繰り出せる環境の良さも魅力ですね。実際に留学した人の口コミやアドバイスは学生にとって何よりも心強いですから、わたしも大教大OGとして貢献していきます。

チー これまでのように指導してもらえればそれで十分ですが、可能であれば、交換留学後、院生として戻って来られるプログラムがあれば、さらに留学希望者は増えると思います。

お二人の今の大学のアピールポイントは？

フォン 日本語学部のほかにもさまざまな外国語学部があり、国際色豊かです。それぞれの学部の友人をつくれますから、大学で異文化交流ができます。ベトナムという国についても、本やテレビで多少は接していると思いますが、実際に肌で感じ、観察することできっと好きになってくれると思います。アクセス面でも、都心からは少し離れていますが、バスなど利用すればとても過ごしやすいですよ。

チー 本学の日本語実習生の短期プログラムの中で、特に力を入れているのが「社会見学」です。テーマを選び、お寺や料理などベトナムの文化について、ベトナム人学生たちとグループに分かれて、現地の人へインタビューをしたり、写真撮影をしたりして、レポートにまとめるといったものです。参加した日本人留学生の中には、次の年に1年間の留学を決めた人もいます。どこかに行って、食べて、買って、ではただの観光です。現地の人とコミュニケーションし、ホームステイをして、現地の人々の生活を体験することで交流が生まれるのです。

ベトナムと日本の架け橋として、お二人の展望を聞かせてください。

フォン 交換留学の体制を強化して、本学の学生と大阪教育大学の学生とが継続的に行き来できるように、双方の学生に一生懸命アピールしていきたい。これは、元留学生としてのわたしの使命でもあります。

チー 大阪教育大学の先生からは、物だけでなく知識や愛情など、いろんなものを与えていただきました。どうやったら恩返しできるだろうと考えた結果、自分の学生にも当時のわたしと同じ、幸せな環境をつくってあげることだと思い至りました。そうやって、ベトナムと日本の新たな架け橋となる、次の世代を育成することで恩返しできたらと思います。



栗林学長(中央)、国際センターの長谷川ユリ教授(左)と

1 関西インカレで陸上競技部が優勝ラッシュ

第92回関西学生陸上競技対校選手権大会(通称:関西インカレ 5月14日-17日 於ヤンマースタジアム長居、ヤンマーフィールド長居)で本学陸上競技部が優勝ラッシュに沸きました。

個人では、200m走での三原雅司選手(スポーツ専攻3回生)を皮切りに、400m走では藤田拓矢選手(大学院保健体育専攻2回生)、棒高跳びでは山方諒平選手(大学院保健体育専攻1回生)が、団体では4×400mリレー(藤田拓矢選手・三原雅司選手・廣瀬達也選手(大学院保健体育2回生)・藤田慎也選手(スポーツ専攻4回生))でそれぞれ頂点に輝きました。

棒高跳びの山方選手は自己記録タイの5メートル30で2位とは20センチ差の圧勝。堂々の連覇を果たし、「昨年と同記録でも、当時はハードルすれすれでした。今年は棒の長さを変えることで、助走スピードがポールに直に伝わり、踏切動作に力強さが増して、余裕のある跳躍ができました。ハードルを通過した瞬間は、気持ちいい!の一言です」と振り返りました。

今後の目標について藤田慎也選手は「毎年関西インカレがピークとなっており、その後の西日本インカレや日本インカレで強さを



を発揮できずにいました。その失敗に学び、今年は、9月開催の日本インカレに重点を置いて計画的に練習し、お互いを高め合っていきます」と抱負を述べました。

2 公式キャラクターのLINEスタンプを販売開始

公式キャラクター「やまお」と「たまごどり」のイラストを使用した『LINEスタンプ*1』の販売を開始しました。

平成26年度学生チャレンジプロジェクト*2「公式キャラクタープロデュース大作戦!」の企画の一つとして、学生がスタンプの考案からイラストの制作までを行いました。

全40種のスタンプは、定番のメッセージ

から、大学生活の中でよく使うもの、大阪教育大学ならではのものまであり、キャラクターたちが表情豊かにメッセージを伝えます。

「公式キャラクタープロデュース大作戦!」代表の門野由華さん(美術コース4回生)は、「本学の学生が使いたいと思うポーズやセリフの考案に工夫を凝らしました。30種以上あるデザインの輪郭を整え、統一

感を出すのに苦労しましたが、スタンプが話題となり、『やまお』と『たまごどり』が今以上に愛される存在になってくれればうれしいです」とコメントを寄せました。

スタンプは「LINEクリエイターズスタンプ」として1ダウンロード(40種入り)120円で販売されています。スタンプショップで「やまお」と検索、またはLINEストア <http://line.me/S/sticker/1066642>より購入できます。

(キリトリ)

郵便はがき

料金受取人払郵便

柏原局 承認

210

(受取人) 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 大阪教育大学 広報室 行

差出有効期間 平成28年 1月31日まで

切手不要

5 8 2 8 7 0 5



*1…スマートフォン等のコミュニケーションアプリ「LINE」で使用できるメッセージイラスト
*2…大学が学生の自主的・創造的な活動を支援する事業

公式Facebookページを開設しています

速報ニュースや公式ウェブサイトに掲載している情報を中心に、本学を身近に感じてもらえる記事、写真や動画などを配信しています。是非、「いいね」をクリックしてください。

<https://www.facebook.com/OsakakyoikuUniv>

本誌にご意見をお寄せください。

今後の紙面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたい事などを、はがきまたはwebアンケートでお聞かせください。

天遊Vol.34 webアンケート

「天遊」とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス総合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。記念碑の揮毫は水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。

UD FONT 本誌はユニバーサルデザインフォントを使用し、植物油インキにて再生紙に印刷しています。この印刷物は、19,500部を681,696円で、すなわち1部34.9円で製作しました。

(キリトリ)

※該当する番号を○で囲んでください

あなたのご所属を教えてください

- | | | |
|-----------|----------|----------|
| ①本学学生 | ②本学卒業生 | ③本学保護者 |
| ④本学教職員 | ⑤附属学校生 | ⑥附属学校保護者 |
| ⑦附属学校卒業生 | ⑧附属学校教職員 | ⑨名誉教授 |
| ⑩教育委員会関係者 | ⑪他大学教職員 | ⑫他大学学生 |
| ⑬その他() | | |